

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第153号

平成30年12月1日発行

発行所: 旭労災病院

〒488-8585

尾張市中平字町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.johas.go.jp/>

旭労災病院 感染対策室 AST始動開始 耐性菌を作らないためのAST活動

呼吸器科主任部長 加藤 宗博 感染管理者 青山由紀子

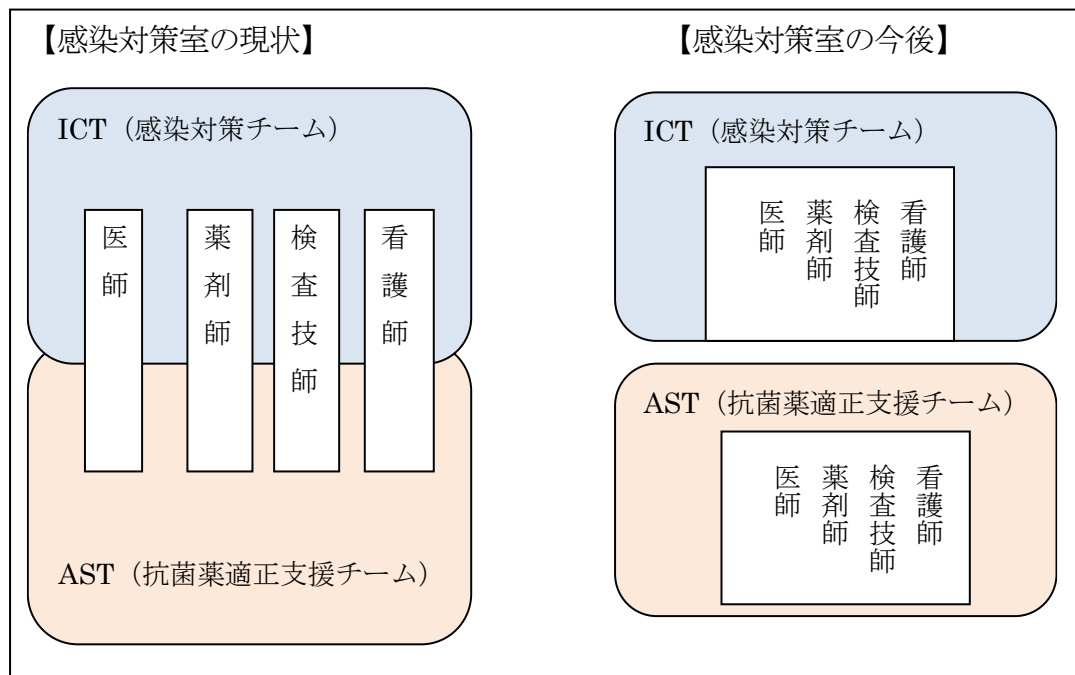
平成30年度診療報酬の内容が改定され、感染対策では今までの「感染対策加算（入院初日390点：-10点）」に加え、薬剤耐性（AMR）対策の推進、特に抗菌薬の適正使用の観点から「抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の取り組みに関する加算（入院初日100点）」が新設されました。

当院のASTは感染防止対策委員会の下部組織に位置し、薬剤耐性（AMR）対策の推進、特に抗菌薬適正使用の推進を活動の目的としています。メンバーは、専任の医師（ICD）・薬剤師（BCPIC）・検査技師、専従の看護師（ICN）の4職種からなる少人数の実働性の高い専門家チームで、感染症治療の早期モニタリングとフィードバック、微生物検査、臨床検査の利用の適正化、抗菌薬適正使用に係る評価、抗菌薬適正使用の教育・啓発などを行っています。

具体的な活動内容として、薬剤師は抗菌薬、特に広域抗菌薬や抗MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）薬に注目し、長期使用している場合は、主治医に必要性を確認し、疑問がある場合には、ラウンドで医師・検査技師を交えて確認します。また、治療に難渋している症例についてもラウンドなどで確認します。バンコマイシンなどTDM（治療薬物モニタリング）が必要な薬剤については薬剤師がシミュレーションして評価し、助言を行っています。検査技師は、培養で特殊な菌が出た場合や、同じ菌が血液培養で出続けるなど、特殊な状況を発見すればAST医師に報告し、個別対応しています。耐性菌やCD（クロストリディオイデス ディフィシル）トキシン陽性の場合、院内感染対策の確認のため感染管理認定看護師（ICN）に情報が行き、ICNは治療状況も確認し、疑問がある場合にはAST医師に報告し、個別に対応しています。医師はコンサルトがあった場合に個別対応しています。血液培養陽性患者については、感染症治療を失敗すると予後が不良になると予想されるため、より注意する必要があると考え、血液培養陽性患者の診断・治療については、ラウンドで確認し、診療録にコメントを残すようにしています。血液培養検査は感染症診療に重要な検査の一つですが、そのタイミングについて、約40%の医師が広域抗菌薬投与前に血液培養検査を実施されています。また当院は、血液培養検査2セット率が95%以上であり、検査の精度は高いと評価しています。細菌学的検査の実施は、コストがかかることですが、細菌の同定をすることで、正しい抗菌薬を適正に最小限に使用する一歩であると考えています。

これら基本的な活動に加え、全体的な教育を講義、臨床実習、抗菌薬マニュアル、ICTニュース、院内感染対策講習会などの形で行っています。また、これらの活動の評価も並行して行っています。

現在は、週に1回のICTラウンドとの兼任で週2回、ASTラウンドを行っていますが、今後は、ICTとASTの人材を確保し、各チームが独立して適正な感染対策をけん引することを目指しています。

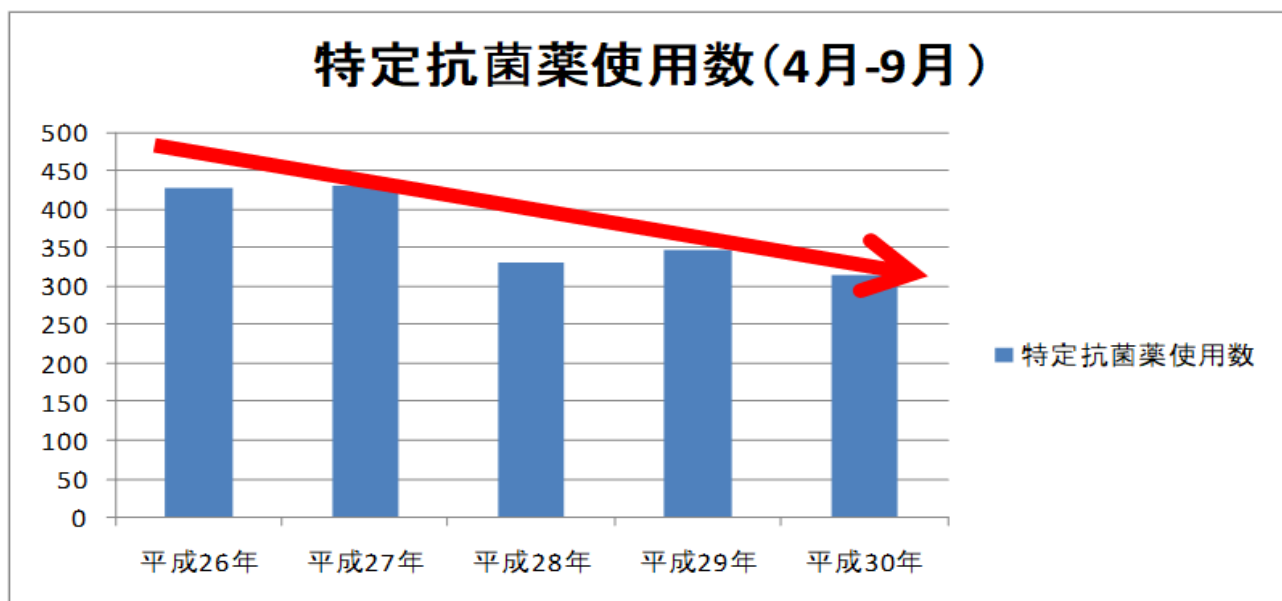


【対象抗菌薬】

当院は平成 26 年より対象の抗菌薬は、使用理由を明確にするために特定抗菌薬使用届を提出することとしています。以下が対象抗菌薬です。

- ・ 抗 MRSA 薬 : バンコマイシン・テイコプラニン・ザイボックス・キュビシン
- ・ カルバペネム : メロペネム・イミペネム・カルベニン・オメガシン
- ・ 広域ペニシリン : タゾピペ
- ・ 第4世代セフェム : ファーストシン
- ・ キノロン : レボフロキサシン・パシル

【特定抗菌薬使用患者数】



平成 26 年～平成 30 年の 4 月～9 月の抗菌薬使用患者数については、減少傾向ですが、AST の成果と言えるまでの根拠はありません。

今後は、初期治療の適切性（経験的治療 24 時間以内に投与された抗菌薬が起炎菌に感受性を有していたか）、菌血症患者の予後（血液培養検査提出日から 28 日以内での死亡を菌血症関連死とした場合の生存率）などの評価項目を設定し、毎年評価を行うことで、AST の活動の成果を明確にできればと考えています。

感染対策室の使命

「ICT は耐性菌を有する患者から感染を拡げない拡大防止対策を実施すること」

「AST は耐性菌を作らないための予防活動」

今後も 4 職種各自が、専門分野のスキルを発揮し、地道に活動を推し進めていきます。



<左から 薬剤部 ・ 医師 ・ 院内感染管理者 ・ 検査部 >